

令和3年度 学校経営計画及び学校評価

1 めざす学校像

全日制普通科単位制高校として、高き志を胸に、変化の激しい社会の中で、人生100年時代の社会人基礎力を視野に、自らの未来を切り拓き、個性と能力を発揮できる「天高く翔る」人材の育成をめざす。

(めざす生徒像)

- 1 夢・志の実現に向かって粘り強く挑戦できる生徒
- 2 解決すべき課題にしっかりと取り組むことができる生徒
- 3 主体性をもって多様な人々と協働できる生徒

2 中期的目標

- 1 夢・志の実現に向かって粘り強く挑戦できるよう「前に踏み出す力」を育成する。
 - (1) 生徒が主体的に取り組む進路学習・キャリア教育を充実させる。
 - (2) 新学習指導要領・大学入試改革を見据えた校内体制・教育活動を充実させるとともに、主体的・対話的で深い学びの充実をめざす。
 - (3) 単位制普通科の優位性を活かしたガイダンス体制の一層の充実を図る。

2 解決すべき課題にしっかりと取り組めるよう「考え抜く力」を育成する。

- (1) 学びの質の向上に向け、知識・技能の確実な定着を図る
- (2) 学校行事・自治会活動・部活動等において、生徒の創意工夫をより引き出す取組みを進める。
- (3) カリキュラム・マネジメントを確立し、授業・評価及び組織運営の改善に取り組む。

3 主体性をもって多様な人々と協働できるよう「自立して歩む力」を育成する

- (1) 自他を尊重し、多様な価値観を認められるよう人権教育・道徳教育に計画的に取り組む。
- (2) 地域や外部機関等を活用して、安心安全な学校づくりを推進する。
- (3) 基本的な生活習慣の確立、マナーの向上、学習活動と学校行事・部活動との両立をめざす。

※ 国公立大学進学者(

30 53名、R01 44名、R02 53→50名超)、難関私立大学合格者(H30 177名、R01 195名、R02 246名→200名程度)

※ ガイダンス・進路指導に係る生徒の満足度90%以上をめざし維持する。(ガイダンスH30 97%、R01 97%、R02 98%→95%以上維持、進路指導H30 85%、R01 89%、R02 89%→90%以上)

※ 授業理解の肯定的評価が80%以上をめざす。(H30 75%、R01 75%、R02 80%→80%以上)

※ 生徒の自己管理能力の肯定的評価(H30 72%、R01 77%、R02 78%→80%)の向上及び、生徒・教職員とのギャップを縮める。(H30 27p、R01 30p、R02 18p→20p未満維持)

※ 生徒・保護者の学校満足度「入学して満足」が90%をめざす。(生徒：H30 80%、R01 78%、R02 84% → 85%超、保護者：H29 88%、H30 89%、R02 89%→90%以上)

【学校教育自己診断の結果と分析・学校運営協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析 [令和3年11月実施分]	学校運営協議会からの意見
<p>【生徒】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生徒の8割以上は、授業、行事、部活動にしっかりと取り組み、学校が楽しいと回答している。また、進路についての情報提供、考える機会も充実し、単位制による科目選択にも概ね満足していることがうかがえる。 ・授業がわからない場合は先生に聞く、悩みを気軽に相談できるという項目の肯定的評価がやや低い。 ・平日の家庭学習の時間が2時間未満、携帯やスマホを3時間程度使用しているという回答がそれぞれ6割程度となっている。 <p>【教職員】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生徒は熱心に授業を受けており、内容もよく理解できていると回答している。 ・生徒の自己管理能力は十分育っているとの回答は55%と毎年低い。 <p>【保護者】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・保護者も8～9割が、入学させて満足している、子どもは学校に行くのを楽しみにしていると回答している。 ・進路指導に関する連絡をもっとしてほしいという回答が半数近くある。 ・学校での生徒の様子が分かりにくいと感じていることがうかがえる。 <p>【まとめ】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生徒が明確な目標を持ち、学習習慣や生活全般を自己管理する力を高めていくことが必要である。 ・教員生徒ともに授業等の教育活動への評価は高い反面、教員は生徒の自己管理能力は低いと感じている。その差を埋めていく工夫が学校に求められている。 	<p>【第1回】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本校の伝統と単位制のメリット、他校との差異を明確にして打ち出すことが必要である。 ・ICT活用の際は、セキュリティやトラブル、家庭のネット環境等についても十分に検討、対応することが大切である。 ・大学と連携し、大学の単位制や授業も参考にするべきである。 <p>【第2回】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校や生徒の目標が以前よりも曖昧でラインが下がってきているのではないかと。 ・目標を明確にするだけでなく、目標を達成するための手段も明示することが必要である。 ・大学への進学者数だけでなく、行きたい大学に進学できているのか、どういう人生を送るためにその進路を選択するのかということまで視野に入れて、目標を設定することが必要である。 <p>【第3回】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校として重点となる目標や取組みを絞り込むには、何かを捨てる覚悟も必要である。 ・先行して単位制を採用している大学から学ぶことも必要ではないか。 ・今後、データサイエンス学(課題発見・解決、統計分析等を取り扱う)のような科目の設定も検討していくことが必要ではないか。 ・本校生徒の共通テストの受験者数は、他の教科に比べ国語、数学、英語において圧倒的に多い。共通テストの平均点を指標にする場合は、受験者数の多い科目に重点を置くべきである。 ・生徒との距離感や一人ひとりへの対応が課題であると思われる。 ・「なぜ」「どうして」という問いを中心にすることが授業のレベルや生徒の学びを高めることにつながる。

3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標 (R2年度値)	自己評価
<p style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">1 夢・志の実現に向けて粘り強く挑戦していきないうちで「前に踏み出す力」を育成する。</p>	<p>(1) 主体性 生徒が主体的に取り組む教育活動を充実させる。</p> <p>(2) 働きかけ力(教員) 学習指導要領・大学入試改革を見据えた校内体制・教育活動への移行を図る。</p> <p>(3) 実行力 単位制普通科の優位性を活かしたガイダンス体制の一層の充実を図る。</p>	<p>【物事に進んで取り組む力】 ア 総合的な探究の時間、LHR等を改善充実させ、計画的に実施する。 (ア)進路学習・キャリア教育の内容、実施時期・提供方法の工夫及び大学、教育産業等の活用 (イ)長期休暇中等の講習を継続・充実</p> <p>【他人に働きかけ巻き込む力】 ア 観点別学習状況評価プロジェクトチームでの研究成果を起点に、全教員が観点別学習状況評価の試行実施を行い、併せて主体的・対話的で深い学びや英語4技能育成のための授業実践につなげる。</p> <p>イ 生徒の学びを記録する取組みをさらに進める。</p> <p>ウ 生徒の学習状況、進路等のデータ分析や情報共有を推進する。その際、外部テスト等も活用して効率・効果を高める。</p> <p>【目的を設定し確実に行動する力】 ア 生徒の進路意識を高め、最適な科目選択を行えるよう、生徒自ら進路の資料・情報を収集し咀嚼する機会を計画的に提供する。 (ア)全教員によるガイダンス(年2回)及び科目選択申請書点検。 (イ)学習や進路意識の診断結果等を活用した懇談・ガイダンスを充実させる。 (ウ)専門家による説明会、講演会等を活用して将来のイメージを具体化させる。 (エ)科目選択モデル案の改善</p>	<p>ア (ア)専門家等による進路講演・説明会の実施状況や課外の進路イベント等への参加状況 (イ)生徒の講習への参加状況(3年46%、全学年29%)</p> <p>ア 観点別学習状況評価の試行実施の状況 生徒の授業理解(80%) 生徒が自ら考えたり、主体的に学んだり活動したりする機会がある(教員83%、生徒91%)</p> <p>イ 生徒の学びを記録・活用するシステムの活用状況</p> <p>ウ 大学入学共通テスト受験者の平均点が全科目で全国平均を上回る。</p> <p>ア (ア)生徒が進路資料・情報を自分で集める努力をしている(67%) (イ)ガイダンスへの肯定的評価の維持(98%) (ウ)将来の生き方や進路について考える機会の提供(89%) (エ)コース選択や進路情報の提供(88%)</p>	<p>ア【◎】 (ア)専門家等による進路講演会や学校説明会を以下の通り実施した。 1年：10回、2年：10回、3年：9回 (イ)生徒の講習への参加状況(3年71%、全学年37%)</p> <p>ア【○】 生徒の授業理解(81%) 生徒が自ら考えたり、主体的に学んだり活動したりする機会がある(教員75%、生徒95%) 教員の肯定率は目標に達していないが、生徒の評価は目標を上回っていることから、おおむね達成とした。引き続き、教員の意識も高めていきたい。</p> <p>イ【○】 すべて学年で手帳を活用し、朝のSHR時に振り返りを記入させている。</p> <p>ウ【△】 25科目中17科目で全国平均を上回った。今後も授業や講習の質、量ともに充実するよう努めていく。</p> <p>ア【○】 (ア)生徒が進路資料・情報を自分で集める努力をしている(73%) (イ)ガイダンスへの肯定的評価の維持(94%) (ウ)将来の生き方や進路について考える機会の提供(86%) (エ)コース選択や進路情報の提供(88%) ガイダンスへの肯定的評価や考える機会の提供は目標に達しなかった。しかしながら、依然として高い水準であることや、生徒が自ら資料を調べる努力は向上していること等を踏まえ、概ね達成とした。これらの水準を維持したい。</p>

<p style="writing-mode: vertical-rl; text-orientation: upright;">2 解決すべき課題にしっかりと取り組めるよう「考え抜く力」を育成する。</p>	<p>(1)課題発見力(教員) 学びの質の向上に向け、知識・技能の確実な定着を図るとともに、主体的・対話的で深い学びの構築をめざす。</p> <p>(2)計画力 学校行事・自治会活動・部活動等において、生徒の創意工夫をより引き出す取組みの充実を図る。</p> <p>(3)創造力 カリキュラム・マネジメントを確立し、授業・評価及び組織運営の改善を進める。</p>	<p>【現状を分析し目的や課題を明らかにする力】 ア 校内教職員研修の充実を図る。 (ア)総合的な探究の時間プロジェクトチームを核に、教科を超えた授業見学や若手教員の資質向上を図る取組みを推進する。 (イ)ICT活用授業委員会を起点に、ICTを活用した授業実践や長期欠席生徒の支援に向けた教員研修の実施や好事例の共有等に努める。</p> <p>【課題の解決に向けたプロセスを明らかにして準備する力】 ア 学校行事等の創意工夫に努める。 (ア)生徒自治会・委員会の活動を中心に実施する。 (イ)学年や学校行事等との連動を意識して実施する。</p> <p>【新しい価値を生み出す力】 ア カリキュラム・マネジメントを推進する。 (ア)カリキュラム委員会、総合的な探究の時間やICT活用授業改善委員会等を核に教育活動を俯瞰して検討を進める。 (イ)データ処理や情報共有を工夫して、授業アンケート、外部テスト等の結果を授業改善に生かす。</p>	<p>ア (ア)教員相互の校内授業見学週間の実施 若手教員研修を核に校内研修・情報交換会を実施 (イ)校内研修1回、好事例の共有3回</p> <p>ア (ア)自治会活動の有用感(74%) (イ)自分は積極的に学校行事に参加した(88%)</p> <p>ア (ア)新しいカリキュラムの整備状況 教員のICT機器の活用[教材研究91%、授業72%] (イ)外部テストの結果分析会等の実施状況 生徒の授業理解(80%)※再掲</p>	<p>ア【○】 (ア)教員相互の授業見学習慣を実施。また、ICT活用や観点別評価の試行は経験年数の少ない教員を中心に校内研修と情報交換会の核となった。 (イ)校内研修3回、好事例の共有1回</p> <p>ア【◎】 (ア)自治会活動の有用感(80%) (イ)自分は積極的に学校行事に参加した(91%)</p> <p>ア【○】 (ア)教員のICT機器の活用[教材研究88%、授業79%] (イ)生徒の授業理解(81%) ※再掲 教材研究については、目標に達しなかったが、授業でのICTの活用が進んでいることから、概ね達成とした。教材研究でもICTの活用を更に進めたい。</p>
--	---	--	---	--

<p>3 主体性をもって多様な人々と協働できるような「チームで働く力」を育成する</p>	<p>(1)発信力 傾聴力 柔軟性 自他を尊重し、多様な価値観を認められるよう人権教育・道徳教育に計画的に取り組む。</p> <p>(2)状況把握力 地域や外部機関等と連携する。</p> <p>(3)規律性 ストレスコントロール力 基本的な生活習慣の確立、マナーの向上、学習活動と学校行事・部活動との両立、安心安全な学校づくりを推進する。</p>	<p>【自分の意見をわかりやすく伝える力】 【相手の意見を丁寧に聞く力】 【意見の違いや相手の立場を理解する力】</p> <p>ア 人権HR、人権映画鑑賞や教職員人権研修を柱に据えて取り組む。</p> <p>(ア)新型コロナウイルス感染症に対する正しい知識と理解を深め、いじめや差別防止等の喫緊の課題への取り組みを継続する。 (イ)各種学校行事、史跡探訪、国際交流研修、スピーチコンテストやビブリオバトル、プレゼンテーション大会等を活かして、自分の意見をわかりやすく伝えるとともに、多様な価値観に触れたり、協働したりする活動を設定し、コミュニケーション力を高める。</p> <p>【自分と周囲の人々や物事との関係性を理解する力】</p> <p>ア 社会貢献の機会を積極的に提供し、推進する。 イ 地域や中学生等への広報の充実に努める。</p> <p>【社会のルールと人との約束を守る力】</p> <p>ア 日常生活指導と強化週間とを効果的に連動させる。 (ア)登下校時の安全指導(特に自転車指導)の継続 (イ)「朝の読書」の時間やSHRの活用 (ウ)生徒や保護者との相互連絡システムの再構築 (エ)「集中と切り替え」を指導し、学習活動と部活動・学校行事の両立を図る。</p> <p>【ストレスの発生源に対応する力】</p> <p>イ 教育相談委員会やスクールカウンセラーとのケース会議を通して、課題を抱える生徒の情報共有、適切な対応を進める。 (ア)教育相談室を生徒にとってさらに安心できる場所となるよう充実を図る。 ウ 月毎の時間外労働の把握と必要に応じて縮減に向けた指導を継続して行う。</p>	<p>ア 生徒・教職員の人権教育行事、教育相談委員会・ケース会議と教職員研修の実施状況。</p> <p>(ア)新型コロナウイルス感染症に対する正しい知識と理解の促進と、いじめや差別防止等の喫緊の課題への対応状況 (イ)史跡探訪、国際交流研修、スピーチコンテスト、ビブリオバトル、プレゼンテーション大会等の実施状況</p> <p>ア 「ボランティア活動が活発に行われている」[教員 36%]</p> <p>イ 学校HPの利用状況の向上 保護者「よく見る」[58%] 教員 「活用されている」[82%]</p> <p>ア (ア)学校は基本的な生活習慣の確立に力を入れている(87%) (イ)遅刻登校者数を 3,000 件未満維持(2,617 件) (ウ)生徒、保護者全員が学習支援クラウドサービスを活用した相互連絡システムに登録し、日常的に活用する (エ)生徒の自学自習時間の向上(平日1～2時間 31%、2時間以上 42%) 部活動加入率(89%) 学習と部活動の両立ができている(70%) 生徒の「自己管理能力は十分にある」の維持と教職員とのギャップを縮小(生徒 78%、ギャップ 18p)</p> <p>イ (ア)「悩みが相談しやすい」(51%)</p> <p>ウ ノークラブデー等の完全実施。 月 80 時間以上の時間外労働教職員数及び産業医からの評価</p>	<p>ア【○】 人権教育行事は例年通り実施した。 教育相談委員会 月1回 ケース会議 2月に1回程度 (ア)保健委員の生徒が感染予防を放送で定期的に訴えている。 SNSトラブル等に組織的に対応した。 (イ)史跡探訪、国際交流研修、スピーチコンテスト、ビブリオバトルは予定通り実施した。</p> <p>ア【-】 ボランティア活動(教員 33%)新型コロナウイルス感染症の影響で、学校での取り組みができていない中の回答であるため判断できない。 イ【○】 学校HPの利用状況 保護者(59%) 教員 (88%)</p> <p>ア【△】 (ア)学校は基本的な生活習慣の確立に力を入れている(88%) (イ)遅刻登校者数 2,401 件 (ウ)生徒、保護者とも日常的に活用している (エ)生徒の自学自習時間(1～2時間 29%、2時間以上 43%) 部活動加入率(88%) 学習と部活動の両立ができている(66%) 生徒の「自己管理能力は十分にある」の維持と教職員とのギャップを縮小(生徒 78%、ギャップ 23p) 生徒の自主性に任せるだけでなく、家庭学習の時間を増やすための具体的な手立てを講じていく必要がある。 イ【○】 (ア)「悩みが相談しやすい」(51%)</p> <p>ウ【△】 ノークラブデーは完全実施 月 80 時間以上の時間外勤務者 17 名(昨年度 13 名) 部活動その他の自主性自発性に基づく取組みに熱心に取り組む教員も多い。今後もワークライフバランスの確立に向けて粘り強く取組みを進める。</p>
--	---	---	--	--